

今回は、探究活動の成果を活用した進路実現の報告です。

◇ 繁ユリ子さんの合格体験記（岐阜大学・防衛医科大学校）です！

岐阜大学医学部医学科 学校推薦型Ⅱ 地域枠推薦 岐阜県コース 合格
防衛医科大学校看護学科 合格

私が高校生活を過ごす中で、大事にしていたことを主に5つ記したいと思います。皆さんの参考になれば、と思います。

1つ目は、授業についてです。私は、どの科目も例外なく授業はめちゃくちゃ大事だと思っています。だから1度も寝たことがありません。本当に先生の話を受けないのは、もったいないです。特に地理の授業は、聞くべきです。地理担当の先生は、過去の模試や共通テストなどの傾向から、今年狙われそうなことを話されたり、地理の知識を、ユーモアを交えて膨大に教えてくださったりしたので、頭に残りやすかったです。理系の私にとって、地理はどうしても自宅で自習する時間がとりにくいです。だからこそ、授業を聞いてその場で頭に残すことをおすすめします。

ちなみに地理に限らず、授業中にノートを用意してメモを残すことは役に立ちました。50分の授業をただ席について聞いているだけだと、流し聞きをしてしまったり、ボーっとしたりしがちですが、メモを取ると聞いたことを自分のモノにした感じがしますし、集中力が持続すると思います。その時のコツは、丁寧に取らないことです（聞いたこと全部を一字一句写そうとするのも無理です）。きれいな字や行間を意識すると、手が追いつきません。スピーディーに、聞いたことを簡潔に、書くことを心掛けてみてください！

2つ目は、質問のススメです。勉強で何かわからないことがあったときに、自分で調べた後に、友達や先生に質問するのをおすすめします。古典、数学、物理、化学を主に私は質問していました。数学は、高2の時の教科担任だった先生にいろいろ質問しまくりました。特に印象的だったのは、ベクトルを聞いた時です。私はベクトルの単元を習った当時、全く理解できず非常に焦っていましたが、先生に聞きに行くと本当のいちから教えてもらえて理解できました。質問することのいいところは、ストップがかけられるところです。授業では分からないと感じたことがあっても聞けずに進んでいきますが、質問では一対一なので分からないことに、「ちょっと待ってください！」をかけられて、分からないことを全てなくせます。物理化学では、質問しに行くことで私の誤った認識を改めてもらっていました。

3つ目は、自学についてです。私は、参考書はあまり使いませんでした。それは、教科書と授業ノートの組み合わせ（たまに教育系YouTubeの「ヨビノリ」）が最強だと考えているからです。私は参考書を古本屋で大量購入しましたが、結局全然使いませんでした。学校で購入する教材で充分だと思います。ちなみに私が好きだった、学校購入の参考書は英語の「ブレイクスルー」です。イラスト付きで入ってきやすいですし、説明が比較などを通して描かれているため分かりやすかったです。逆に私が後悔しているのは、問題を解く量が少なかったことです。復習の時に、その単元を理解してからしか問題が解けないと考え、理解に時間をかけて普段問題演習をしていませんでした。そのため定期テスト前に問題が解けなくて焦っていました。この反省から私は、理解と演習をバランスよくやることをおすすめします。完璧な理解を目指すのではなく、大筋をつかめたら問題を解いてみて、問題を解く中で理解を深めていく方が効率的です。

ここで私なりの暗記するときのコツをお伝えします。それは、絵をかいて歌うことです。言葉自体が難しい時には似たものと関連付けたり簡単なものにイメージづけたりする、覚えることが膨大ならまとまりごとに替え歌を作ってみると覚えやすくなります。例えば私は、地理の気圧帯と風を覚える時には、架空の「ブロブロセブン」というアイドルを作って覚え

たり（ねたい しゅう「熱帯集束帯」をリーダーにして構成するグループという設定）、生物基礎で赤血球・白血球・血小板のそれぞれの特徴を覚える時には「マリーゴールド」で替え歌を作ったりしました。



4つ目は、探究活動に力を入れることです（左写真、探究活動発表会・まなびかふえの様子）。私は、1年生では「子ども食堂を考える ～人とのつながり」をテーマに、関市の貧困問題について探究活動を行いました。私は、医師になりたいと考えていたので、SDGsの目標の中から生命に関わる、「貧困をなくそう」を選びました。関市での貧困の問題とそれの解決に向けた取り組みを調べました。

そして探究活動を深めるために研究推進部の先生に相談に行くと、関市で子ども食堂を開いている円通寺を紹介してくださったので、実際に私もそこに行きました。小学生の子が多くいて、トランプで遊んだり宿題をやったりして、そのあとに一緒にご飯を食べました。その子たちの両親は共働きで夜遅く帰ってくるため家に帰ると一人ですが、子ども食堂に行けば人とのつながりができますし栄養バランスの良いご飯も食べられます。地域における子ども食堂の役割を学び、高校生の私にも問題を解決するお手伝いができることを、身をもって実感しました。

そして2年生では本町探偵団と「高校ぶうめらん」の活動を通して、関市のまちづくりをテーマにチームで探究活動を行いました。私が住んでいる関市の本町商店街は「シャッター街化」しています。その本町商店街を活性化させたいと考え、謎解きを通して楽しみながら親子に地元について知ってもらいたいという目的で、謎解きイベントを企画運営する本町探偵団を作りました。実際に何度もイベントを開催して、関市や本町商店街についてまとめたプリントを配りました（右写真、イベント当日の様子）。



関市のNPO法人ぶうめらんの発行するフリーペーパー（高校ぶうめらん）の編集にも関わり、関市で働く人に取材してそれを記事にする活動をしました。なかなか知らないような職業の方にも取材をすることができ、自分の将来なりたい職業以外にも選択肢が広がりました。また、学校や塾の先生以外の大人の方と話すことができるため、自分の考え方が深まりますし視野も広がります。地域理解にもつながりました。そのため私は、ぶうめらんの記者になることをとてもおすすめします。



さらに2年生では、SSS（スーパーハイスクールセッション）という県内の探究活動に力を入れている高校の生徒が集まって、ともに岐阜県の課題を解決するために話し合う課題解決学習に参加しました。初対面の人たちと活動するのは緊張しましたが、徐々に打ち解けて互いの案に賛成したり付けたしをしたりして、最後にはみんなの前で発表を行いました。SSSからは、チームで協力して課題を解決していくために議論し、さらに役割分担して発表する力を身に付けました（左写真）。

5つ目は、やりたいことには積極的にチャレンジすることです。私は、1年生の後期から生徒会に立候補しました。それまではそのようなことにチャレンジしていなかったため、自分が役に立てるか、周りについていけるかが心配でした。実際に初めは会議で意見を言えず人の意見に肯定を繰り返しているだけしかできませんでした。しかし先輩方はみんなに意見を振ってくださったので、慣れてくると、私も意見を言ったり、提案したりすることができるようになりました。そして関高生全員で関高校をよくす

るために生徒会議事録の作成提案をしました。生徒会は誰かの意見を否定せずに受け入れ発展させていく組織なので、未経験者でも成長していけます。

他にも先ほどのぶうめらんの記者や、英語スピーチコンテスト、校内で行われる社会人セミナー(さくら塾)への参加(下写真、医師によるセミナーの様子)、ボランティア活動など、興味を持ったものには積極的に参加しました。高校生活で勉強と両立して様々な活動にチャレンジすることで経験が豊富になり、生活の中で役立つことを多く学び身に付けることができました。例えば、生徒会で培った仲間と協力して活動する力を本町探偵団でリーダーとしてチームをまとめる時に使うとかです。

高校生活は短いので、ぜひ上記のことを参考に後悔のない過ごし方をしてください。なお、私が受験して面接を受けた防衛医科大学校看護学科と岐阜大学医学部医学科 学校推薦型Ⅱの受験レポートは、当日の様子なども記したので受験する人はぜひ参考にしてください。また、健康面も大切です。私は遅くとも23時には寝ていました。そして、特に冬場は教室の換気をしてください。受験日近くに体調を崩すのはとても悔しいことです。そうならないように休み時間ごとに換気をしましょう。私は、寒いというクラスメイトを横目に毎回換気をしました。すぐに閉められることも多かったです。クラスが一丸となって換気をして健康的に過ごすといいなと思っています。

最後に担任の野中先生、2年間お世話になりました。私が入試について分からないことがあり尋ねた時に、すぐに調べて回答をしてくださり、何度も助かりました。面接練習では何も言えなかった最初の方から、毎回面接内容を変えて工夫してくださったり、直すべきことを的確に指導してくださったり、野中先生に面接練習をお願いすれば大丈夫だと心強かったです！ありがとうございました！

